



研究室でパーティーをしたり、熊本城へ観光にも行きました。実験をしているのは、Mohamed Osamaさん

## “拠点”の発展から科学全体の発展へ

当拠点で掲げている「人材育成と研究推進は表裏一体」という理念のもと、今回の招聘事業においても「若手研究者の人材育成」に重きを置いたプログラムを組みました。

具体的には、短い期間の中でも、当拠点で実施している研究を経験できるよう、細胞の培養や染色、遺伝子情報を読むためのDNAの取り出しなど、基礎的な実験を体験してもらうという内容です。当拠点に来て、初めて手にする研究器材もあったようですが、扱いについても非常に習得するのが早く、しばらくすると一人でも実験を任せることができるようになりました。

さらに、彼らは自分が担当した実験や研究について、文献や既往研究を探し出してきては、理解できるまで教授や他のスタッフと議論を交わすなど、エジプトでは得ることのできない技術や知識を、限られた時間の中で習得。彼らが当拠点で体験した研究環境は、彼らの研究に対する意欲をさらにかきたてることになりました。事実、彼らは「もっと当拠点で学びたい」、「熊本大学で、博士号を取得したい」という意志を持ち、本学への留学を決意したといえます。これは、当拠点が国際的な人材育成の拠点としての取り組みを行っているという証です。

今回の事業で受け入れた4名の研究者からは、日本で得た知識や技術を持ち帰り、母国の科学の発展につなげたいという、とても熱心な姿勢を見ることができました。彼らの姿勢は当拠点の若手研究者にとっても、良い刺激となっています。今後は、さらに国際交流事業の成果を活かし、海外の研究機関との若手研究者受け入れ、派遣を行う予定です。

このような、当拠点をきっかけとした国際的な人材育成が、細胞系譜制御研究全体の発展となり、さらには科学全体により影響を及ぼすといっても過言ではありません。グローバルな研究の発展につながる優秀な人材の確保・育成を行う拠点づくりに、これからも積極的に取り組んでいきます。



Noha Noufalさん(上)と Mohamed Fouadさん(左)。エジプトでは、医師や医療関係の仕事をしています



2週間の滞在期間だった Mai Hassanさん。始めの1週間は、研究テーマごとにローテーションを組んで、各実験を体験しました



グローバルな研究の推進と、優秀な人材の育成のため、国際交流協定校と連携し、積極的に国際交流を進めています

## LIAISON NEWS



「実験がうまくいったという話を聞くとうれしいですね」と技術支援者の藤村さん(左)と「皆さん、どんどん利用してください」と話す技術支援者の青木さん(右)



青木さんが操作する「FACS Aria」。必要な細胞を生きたまま採取



「ミクロトーム」。パラフィンブロックをスライス

## 「セルソーティング支援」と「組織標本作製支援」を開始

熊本大学グローバルCOE拠点では、新たに「セルソーティング支援」と「組織標本作製支援」を、専門のオペレーターとして技術支援者を配置して開始しました。

まず「セルソーティング支援」は、FACS Aria(セルソーター)を使用して、ES細胞・iPS細胞などの培養細胞や生体から採取した細胞から、目的の細胞を生きたまま分離するものです。FACSのオペレーターとして、専門の技術支援者を1名配置し、今年の2月から本格的に稼働しています。

FACSは操作が煩雑なため、機械操作を覚え、慣れるまでに時間と労力が必要です。専属のオペレーターにソーティング作業を依頼できるため、研究員はより専門的な研究に取り組むことができます。

次に「組織標本作製支援」は、クライオスタットやマイクロトームを使って、臓器のサンプルを薄くスライスし、標本作製するものです。パラフィン組織と凍結組織を扱います。一つ一つが貴重なサンプルです。機械操作には、高度な技術が必要となるため、昨年より技術支援者を1名配置し、研究員と技術支援者が、入念に打ち合わせを行いながら進めています。

細胞の採取や標本の作製などの研究手順がスムーズに行えると、研究の選択肢が増え、より多くの時間を研究に費やすことが可能になります。

当拠点では、今後もこのような研究活動を技術的に支援する事業を展開していきます。

「クライオスタット」。凍結されたブロックをスライスして標本に

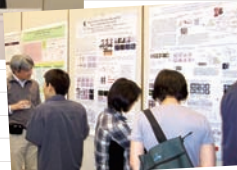


標本作りは慎重に

## グローバル COE 推進室ノート

### 01 シンポジウムin 台湾

平成22年度最初のイベントとして、4月8-9日に台湾のトップ研究機関であるアカデミアシニカで「Academia Sinica-Kumamoto University Joint conference on Medical Research」を開催します。公募で選ばれた若手発表者を含む総勢12名がアカデミアシニカで口頭発表を行います。今回の台湾でのシンポジウムを皮切りに、平成22年度も世界各国の大学や研究機関との国際交流事業を継続的に実施していく予定です。



### 02 若手研究者の活動状況

当拠点では、若手研究者の研究活動支援を目的に「I-CAN-DO-Program」のホームページ(<http://www.g-coe.org/project/login.html>)を開設しています。そこへ新たに「Activities by Young Scientists」のコーナーが設置され、大学院生を含む若手研究者の活躍(受賞や論文掲載)を紹介しています。随時更新されますので、「I-CAN-DO-Program」のホームページを是非のぞいてみてください。

現在掲載されている若手研究者の活動紹介です。

(Award)

Dec.13 2009 Best Student Presentation. The 26th Japanese Pharmaceutical Sciences in Kyushu (Fukuoka, Japan), Dec.12-13, 2009. Takashi Matsuno (Department of Molecular Medicine)

May.22 2009 Best Student Presentation. The 9th Annual Meeting of the Protein Science Society of Japan, May 20-22, 2009.

Masanori Miyata (Department of Molecular Medicine)

(Publication)

Jan.12 2010 Biochemistry, 2010, 49 (1):114-23.

Masanori Miyata (Department of Molecular Medicine)

Nov.15 2009 Experimental Cell Research, 2009, 315(19):3294-300.

Takuya Sugahara (Department of Molecular Medicine)

Mar.27 2009 Journal of Biological Chemistry, 2009, 284(13):8312-21.

Seiko Susuki (Department of Molecular Medicine)